

2017年01月31日(火)【外為L a b】松田哲

タイトル:【トランプ氏の大統領令】

トランプ大統領が就任して、その就任直後から大統領令を頻発している。

その大統領令は、主に、トランプ氏が、大統領候補だった時に、公約として主張してきた内容のものだ。

例えば、「TPP離脱」や「メキシコとの国境の壁」といった内容だ。

多くの人たちは、トランプ氏が、選挙のための話題として提言しただけで、実際に、それを実行するのか、懐疑的に思っていたところもある。

しかし、トランプ大統領は、就任早々に、実行に移している。

個人的には、トランプ氏の言動は、ほとんど一致しているので、冗談や、国民へのうけを狙った話題作りではなく、本気で実施してくるのだろう、と考えている。

しかし、トランプ大統領の発したその大統領令は、合法であるか否か、不明な点も多い。

イスラム教徒が多数を占める7カ国からの入国禁止を命じた大統領令は、憲法違反の可能性がある。

それで、イエーツ司法省長官代理は、この入国禁止を命じた大統領令に従わないように、司法省内に通知していたようだ。

それを知ったトランプ大統領は、即座にイエーツ司法省長官代理を罷免し、新たな司法省長官代理を任命した。

米国内では、「7カ国からの入国禁止を命じた大統領令」に反対するデモが行われたり、世界各国で、その大統領令を批判する声が高まっている。

もちろん、この「7カ国からの入国禁止を命じた大統領令」が、「憲法違反なのか、そうではないのか？」は、米国の司法の判断を待つしか、答えは出ない。

他国の問題では無く、米国の問題であり、米国でしか結論を出せない。

日本や、欧州の他国が、何を言っても関係無いことは、単なる事実である。

しかし、それでも、個人的な見解に過ぎないが、この「7カ国からの入国禁止を命じた大統領令」は「米国の憲法違反」と考えている。

その意味では、自分の職務と、自分の良心・良識に従ったイエーツ司法省長官代理に、拍

手を送りたい。

「人間かくあるべき」と考えるからだ。

振り返って、日本を見ると、どうだろうか？

間違った政策、例えば、「集団的自衛権」は、憲法違反の疑いが高い。

多くの高名な日本の大学教授が、憲法違反の声を上げている。

しかし、日本では、司法の判断に付されることは無い（今のところ無さそう）。

日本には、「長いものには巻かれろ」という「ことわざ」があるが、そういったことなのか？

「雉も鳴かねば、撃たれまい」と思っているのだろうか？

そのように考える人ならば、イエーツ司法省長官代理は、「単なるうつけ」なのだろう。

日本と米国の文化の違いを痛切に感じる。

トランプ大統領が就任してからの米国は、混乱の様子がうかがえるし、今後、どうなるのか、見通せない。

しかしながら、それでも、日本よりは、ずっとマシに映る。

「間違った政策は、間違っている」と、正々堂々と、対峙する人が存在する。

正しいことを正しいと発言できる場があるし、間違ったことに屈しない土壌があるように映る。

さて、

「今後のトランプ政権が、果たして、どのような政策を出してくるのか？」

全く目が離せない。

T P P 離脱を大統領令で決めたのだから、トランプ政権は、日本に対して、貿易の不均衡を是正するように、強烈な譲歩を迫ってくるのだろう、と予測している。

+++++

(2017年01月31日東京時間14:45記述)